

日本女子大学目白キャンパスにおける地震防災啓発を目的とした提案
ー市民の防災力向上に向けてー その 25ー

正会員 ○ 有賀 小麦*1
正会員 石川 孝重*2

防災
防災ガイド

地震
啓発

大学
アンケート

§ 1 はじめに

近年では東海地震をはじめとしたさまざまな地震の危険性が危惧されている。そこで日本女子大学では地震対策の一つとして、2008 年度から全学生に「大学生・大学院生のための日本女子大学 防災ガイド」¹⁾を配布した。しかし、大規模な地震災害を常に身近に感じられるということではなく、この防災ガイドを日頃から持ち歩いている学生は多くなく、防災ガイド自体の認知度も低い。そこで本研究では日本女子大学目白キャンパスを対象に、学生の防災意識を明らかにした上で、大学の防災対策の実態を踏まえ、携帯版地震防災ガイド、地震防災啓発用HP、冊子版地震防災ガイドの3種類のIT技術とアナログな手段を組み合わせた提案を行い、学生の防災意識を高めることを目的とする。

§ 2 日本女子大学の防災の実態

日本女子大学の防災時の対応と日本女子大学の学生の防災意識について既往研究^{2, 3)}を参考に調べた。その結果、建物の耐震性については 2008 年現在、目白キャンパスにあるほとんどの建物で耐震工事が終了しているが、一部建物では耐震工事が済んでおらず、大地震が起こった場合に危険の可能性もある他、目白キャンパス内の食料の備蓄、緊急用回線の不足などが明らかになった。

§ 3 学生を対象としたアンケート調査

目白キャンパスに通う学生を対象に、アンケート調査を実施した。アンケート調査の主な目的は、学生が普段どのような携帯物を持ち歩いているのかを明らかにして携帯版防災ガイドの形態を決定するためである。同時に学生の防災意識も明らかにし、携帯版防災ガイド及び地震防災啓発用HP、冊子版地震防災ガイドに盛り込む内容の検討を行う。アンケート調査の概要と主な調査項目を表 1 に示す。

学生が普段持ち歩いている携帯物の携帯率を図 1 に示

表 1 アンケート調査の概要とその項目

対象者	日本女子大学目白キャンパスに通う学生
実施時期	2008年10月上旬～11月下旬
配布・回収方法	手渡しによる配布・回収
回収状況	配布数148部、回収数108部、回収率73.0%
主な質問項目	さまざまな携帯物の持ち歩いている頻度 普段使用している財布の種類 財布に収納できる携帯版防災ガイドがあれば収納するか エレベーター乗車中に地震に遭遇した場合はどうするか知っているか 大学構内での防災避難訓練があれば参加するか 自宅までの徒歩経路を知っているか

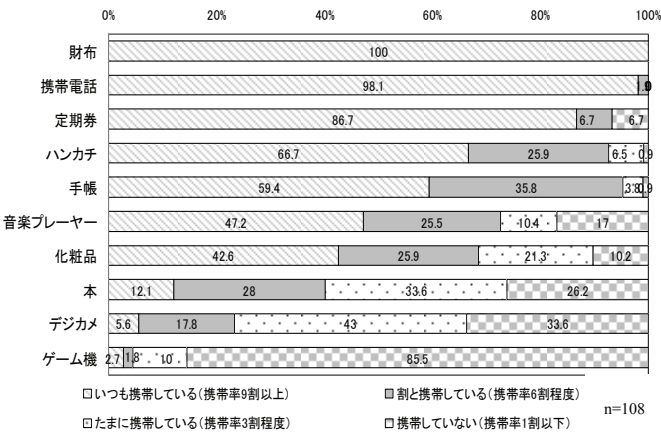


図 1 学生の携帯物とその頻度

す。一番その頻度が高い携帯物は財布であり、調査対象者全員が携帯率 9 割以上の選択肢を回答している。

「財布に収納でき、災害の直後から事後に対応している防災ガイドがあるとすると収納し携帯するか。」という問では、7 割以上の学生が「携帯する」と回答している。その結果を図 2 に示す。

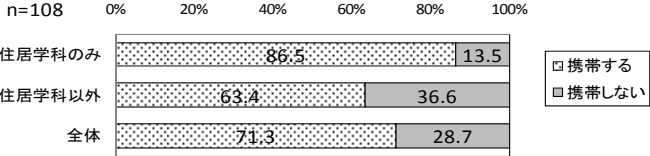


図 2 財布に収納できる携帯版防災ガイドを持ち歩くか

住居学科に所属する学生は、普段使用している財布に入れて持ち歩き携帯すると答えた学生が 86.5%である。しかし住居学科以外の学生で、普段使用している財布に入れて持ち歩き携帯すると答えた学生は 63.4%である。この背景として、住居学科の授業には必修科目・選択科目として「住居構造」「力と形」「住居安全情報論」「構造・材料実験」といったカリキュラムが組まれており、日頃から建築物の安全性や地震災害の恐ろしさを学ぶ機会が多いこともあり、災害についての関心が高いことが推察できる。また、普段使用している財布に入れて持ち歩き携帯しない理由として一番多かった回答は、財布に入れる必要性を感じないからであった。

§ 4 携帯版地震防災ガイドの提案

携帯版地震防災ガイドの大きな目的はガイドの携帯率を上げることである。そのため形式は、前章より財布に折りたたんで収納する形式に決定した。学生証を収めている

スペースに収納することを考え、サイズは折りたたんだときの縦の長さが 5.4 cm、横の長さが 8.6 cm の長方形で学生証と同じ大きさにする。一枚の紙を冊子状に折りたたみ、広げたときはその 8 倍の大きさの縦 17.2 cm、横 21.6 cm とする。

日本女子大学目白キャンパスに滞在中に地震が発生した場合、その直後に最低限必要な情報のみを掲載し、コンパクトながら非常時に役立つよう考える。携帯版地震防災ガイドの試作品を作成した。試作品を用いてヒヤリングを行い、載せる項目を検討した。ヒヤリングは日本女子大学学生、他大学学生を中心に計 10 人に行い、自由に意見を述べてもらった。

その結果決定した携帯版地震防災ガイドに掲載する項目を表 2、面 2 を図 3 に示す。面 1 は一般的な知識、面 2 は図 3 に示すように、学内地図を対応させて、目白キャンパスにいる学生が必要な情報に特化した内容とした。

表 2 携帯版防災ガイドの掲載項目

掲載項目	
面1	面2
消火器の使い方	目白キャンパスの地図を載せ、AEDの場所と屋内消火栓の場所と一時避難場所を記す。
屋内消火栓の使い方	総合で注意すべき4点
AEDの使い方	各建物の注意点
建物内で地震にあったら	
エレベーター内で地震にあったら	

ヒヤリングにより、「表紙が欲しい」「自分のデータや家族の集合場所を書き込めたら良いのではないか」という意見が出たため、カードサイズのケースをつけてそこに自分のデータを書き込めるようにした。

§ 5 地震防災啓発用 H P と冊子版地震防災ガイド

携帯版地震防災ガイドはあくまで地震発生直後のみに対応しており、日本女子大学に特化した項目を中心に載せている。そのため、地震発生前に知っておくべき必要がある情報や、発生直後に知りたい情報のもと細かい部分などを学生に啓発する手段として、地震防災啓発用 H P と冊子版地震防災ガイドを提案する。この 2 つの媒体は両方とも掲載項目は「地震に備えて」「地震発生後」と大きく 2 つに分ける。

地震防災啓発用 H P はトップページに掲載項目を羅列している。楽しく学習できるように、ロゴをカラフルにし絵を多用するなどした。また、日本女子大学目白キャンパスの内容であるため、日本女子大学の地震防災に関連する

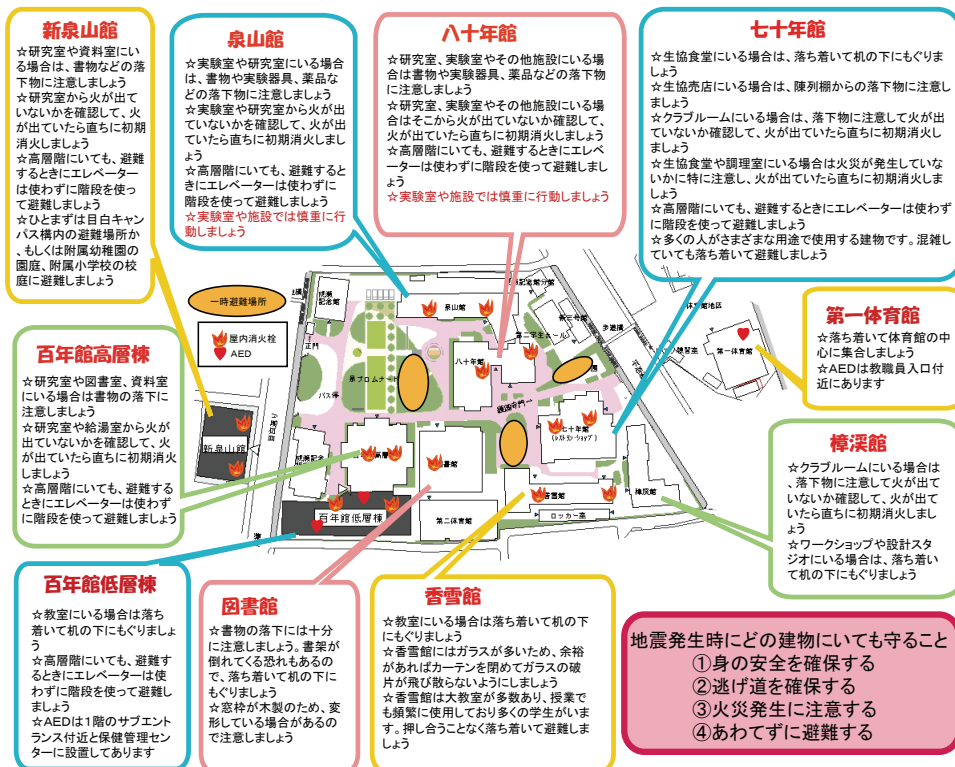


図 3 携帯版防災ガイドの面 2

項目にはピンク色の星印をつけて、どの項目が関連しているのか一目でわかるようにした。

冊子版地震防災ガイドも地震防災啓発用 H P と同様に目次を付けてどの項目がどこに掲載されているのかわかるようになっていく。冊子版のような情報媒体であると読み返さない学生が多いため、読んでみたい気持ちになるようにカラフルにしたり絵を多用するなどした。

§ 6 おわりに

2008 年に配布された防災ガイドは、一般的事項が多いために学生へ浸透していなかった。学生が携帯しやすい形式・内容をアンケート調査を踏まえて検討し、財布に入れて持ち歩けるような大きさと、日本女子大学に特化したものになるように意識して提案した。その結果 3 種類の地震防災啓発プログラムを作成したが、今後は H P や冊子の繋がりをより深め、これらの活用により学生の安全性が確保され、事前の意識啓発につながることを期待している。

アンケート調査、ヒヤリングにご協力いただいた方々に深く感謝する。

【引用文献】

- 1) 日本女子大学：2008 年度 大学生・大学院生のための日本女子大学防災ガイド，学校法人日本女子大学，2008 年 4 月。
- 2) 小島理佳，石川孝重：学園の地震被害に着目した危機管理に関する研究—市民の防災力向上に向けて—その 10—，日本建築学会学術講演梗概集(都市計画)，pp. 383~384，2007 年 8 月。
- 3) 吉村敦子，石川孝重，伊村則子：大学を活用した防災ネットワーク構想に関する学生の意識調査—市民の防災力向上に向けて—その 9—，日本建築学会学術講演梗概集(都市計画)，pp. 381~382，2007 年 8 月。

*1 ミサワホームイング東京

*2 日本女子大学住居学科 教授・工学博士

*1 MISAWA HOMEING TOKYO

*2 Prof., Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's Univ., Dr. Eng.